

令和 5 年度

事業者番号	0128	事業所番号	012801
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	朝霞市クリーンセンター		
事業所所在地	市区町村	朝霞市	
	字・地番	大字浜崎390番地の45	
産業分類名(中分類)	88 廃棄物処理業		
分類番号(中分類)	88		
事業活動の概要	事業内容	事業内容：埼玉県朝霞市における廃棄物の中間処理	
		職員数：11人(令和5年4月1日現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	～	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量4,274t-CO ₂ に対して、削減計画期間における削減率を20%以上とする				
	その他ガス	令和5年度は、令和3年度比で同等程度を目標とする				
削減目標の概要	エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	17,096	t-CO ₂		
		削減目標量(計画期間合計)	4,274	t-CO ₂	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間			年度	～		年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,523	1,554	1,407		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計 画 期 間					
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	3,295	3,343	3,024			
前 年 度 比 (%)	—	1.5	-9.5			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO ₂	10,962	13,282	11,057		
	メ タ ン					
	一 酸 化 二 窒 素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六 ぶ っ 化 い お う					
	三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	14,257	16,625	14,081			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（エネルギー起源CO₂）CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	0.1228	0.1233	0.1116		
前 年 度 比 (%)	—	0.4	-9.5		
活 動 規 模 の 指 標 単 位					
焼却処理量	t	26,826.00	27,116.00	27,103.00	

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	コロナ禍の影響により、ごみ排出量が増えたことにより、その処理に必要な電気使用量が増加したため
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	ごみの焼却処理量が増えたことにより、その処理に必要な電気使用量が増加したため
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	令和3年度は炉の停止・再稼働によるエネルギー消費量が増加したが、令和4年度は安定的に稼働したため、対前年度と比較し減少した
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,274	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	4,274	4,274	4,274	4,274	4,274	21,370	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 ($C = \sum A-D$)							17,096
	排出削減目標量 ($D = \sum (A \times B)$)							4,274
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	3,295	3,343	3,024			9,662	
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	22.91%	21.78%	29.25%			—	
	排出削減量 ($G = A - E$)	979	931	1,250			3,160	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	未実施				

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	分 号	区 分 名 称				
			大 区 分 中 区 分				
1	330200		33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	夏季における28度設定、冬季における20度設定の実施(第三計画期間も継続運用)	R1以前	R1以前	
2	350600		35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	昼休憩時における事務スペースの消灯(第三計画期間も継続運用)	R1以前	R1以前	
3	350600		35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	事務室内蛍光灯の間引き(第三計画期間も継続運用)	R1以前	R1以前	
4	490100	その他	49_排出量取引	削減目標を達成できないと見込まれる場合は、排出量取引を活用する。	R7以降		
5	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	「朝霞市地球温暖化対策の重点取組指針」の策定により、重点的削減エネルギー使用量の削減目標及び削減に向けた取り組みを継続的に推進する(第三計画期間も継続運用)	R1以前	R1以前	
6	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	「朝霞市地球温暖化対策の重点取組指針」に基づき、継続的に環境負荷の低減への取り組みの周知・徹底(第三計画期間も継続運用)	R1以前	R1以前	
7	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	ごみ焼却処理施設精密機能検査や省エネルギーセンターによる工場調査の結果を踏まえ設備改修による燃焼効率の向上や効率的な運転管理の実施により排出量の削減を図る(第三計画期間も継続運用)	R1以前	R1以前	
8	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	各処理施設の照明設備を修繕する際には、LED照明器具への更新を進める	R1以前	R1以前	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄